

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	群馬県	事業実施主体	昭和村	地域再生計画名	道の駅「あぐりーむ昭和」を拠点とした外部機関との連携、森林・スポーツを活用した交流人口の拡大計画
計画期間	令和2年～令和6年	評価責任者	群馬県環境森林部長 永井 浩二、昭和村建設課長 小林 勉		

地域再生計画の目標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価			
	基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	目標1	年間観光入込客の増加	608千人	H30	638千人	R3	678千人	668千人	R6	758千人	○	アクセスしやすい道整備の効果により、道の駅を中心に観光客増につながった。またコロナ以降は昭和の秋祭りやウィンターフェスティバルの復活により観光客が増加し、目標値を達成することができた。	
	目標2	道の駅「あぐりーむ昭和」入込客の増加	432千人	H30	453千人	R3	564千人	475千人	R6	614千人	○		さくらまつりやトモロコシ祭り等屋外イベントが好評だったことと、名産である高原野菜や果実を求め道の駅の観光入込客数が増加し、目標値を達成することができた。
	目標3	沼田市、昭和村における木材（素材）生産量の増加	43千m3	H30	45千m3	R3	37千m3	47千m3	R6	40千m3	△		3
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標1								-				
	指標2								-				
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
地域再生計画に記載がある特別な措置を適用して行う事業	村道整備事業	1.65km	0.95km	1.74km	予定していた村道森下赤城原線、村道永井中野線について、計画以上に進めることができた。								
	林道整備事業	0.43km (0.53km)	0.246km	0.35km	法面の緑化を当初計画していた箇所について、施工にあたり再度現地を確認したところ植生の自然導入が進んでいたことから一部計画を取り止めた。このため実績は計画値を下回ったが、全体整備量としては概ね計画どおりの実施である。								
その他の事業	道の駅管理事業	集客を図るための広報活動やイベント支援、販売促進の支援を行う。			トモロコシ祭り、野菜収穫体験、どんど焼きなどイベントを多く実施した。また、村商工会と連携し、村内事業者によるミニマルシェを開催した。								
	赤城山登山道整備・森林ウォーキング事業	森林を整備することで鳥獣被害の抑制や豊富な自然環境を観光資源として活用する。			赤城山登山道への登山道マップ(掲示板)作成や記念碑設置を行い毎年登山道の維持管理を行うことで観光客の呼び込みを行った。森林ウォーキング事業ではコース周辺の間伐等を行い鳥獣が定着しづらい森林整備を実施した。								
	地域おこし協力隊設置事業	地域外の人材を積極的に誘致し、定住・定着を図る。			令和2年度1人、令和3年度1人、令和4年度1人を受け入れ、道の駅「あぐりーむ昭和」を中心に活動してもらい、村の観光事業(イベント開催、PR活動)に従事してもらった。								
	森林環境保全整備事業	造林や間伐等の森林整備への支援を行い森林の健全な育成及び森林生産力の増進を促進する。			森林所有者等が実施する造林、下刈り、除伐、間伐等の森林整備に対する支援を行った。								
計画外で独自に実施した事業													
④評価方法	事後評価委員会（書面開催）を開催し、本事業に関する評価を行った。												
⑤事後評価の公表方法	昭和村のホームページに掲載												
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に行うことにより、道の駅を中心にその他の観光スポット、林業の生産拠点等の道路ネットワーク連携強化を図ることや木材の安定供給を可能にすることを目的としている。なお、指標1「観光入込客の増加」については、アクセスしやすい道整備やイベント活動の充実化により目標以上を達成することができた。指標2「木材生産量の増加」では最終目標値には達していないが、コロナ後は回復傾向で生産量は増加してきているため引き続き事業展開を図っていきたい。												
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、円滑に整備計画が進み、年間観光入込客は増加、また木材（素材）生産量も増加傾向であることから目標は概ね達成した。道の駅「あぐりーむ昭和」を拠点としたさらなる外部機関との連携、森林・スポーツを活用した交流人口の拡大増を図るために、今後もアクセスしやすい道整備の推進、観光情報発信の強化等一層充実していきたいと考えている。												